

今回は、道端の草花や香りのある葉、ベリーの実など、子どもたちの生活の近くにある植物を素材にしました。

子どもたちは、並べられた植物をじっと見たり、そっと手を伸ばしたりしながら関わり始めました。すぐには触れなくても、大人と一緒に匂いを嗅いだり、葉をちぎったり、実をもぎ取ったりすることで、少しずつ素材に近づいていく姿もありました。

ベリーの実をカップに入れたり、別の容器へ移したり、つぶして赤い汁や種が出てくる様子を楽しむ子もいました。また、水を移し替えたり、絵の具を混ぜて色水を作ったりする中で、青と黄色を混ぜて「緑になった」という言葉も聞こえてきました。

植物の中からアリやダンゴムシを見つけ、じっと見つめたり、カップに入れて観察したりする場面もありました。子どもたちは、水、色、植物、虫、容器など、それぞれの入口から、自分なりに世界を確かめているようでした。

活動を通して、1歳・2歳児にとって素材との出会いは、ただ置いてあるだけで始まるものではなく、大人と一緒に触る、匂いを嗅ぐ、実を取ってみるなど、最初の一步を共にすることで広がっていくのだと感じました。

小さな手で触れたこと、匂いを嗅いだこと、実を取ってみたことが、いつか散歩道や食卓で「見たことあるかもしれない」「触ったことあるかもしれない」という感覚につながっていくかもしれません。

